《ブラジル》東京五輪 ３日に一挙に金１銅３＝サッカーも決勝に進出

SOFFIATTI GRAEL
KUNZE

金メダルに輝いたセーリングのコンビ（Julio Cesar Guimalhaes）

東京五輪は現地時間の３日、セーリングでマルチネ・グラエルとカヘナ・クンゼのコンビがリオ五輪につぐ２大会連続となる金メダル獲得を果たすなど、計四つのメダルを獲得した。また男子サッカーが決勝進出を決めた。３日付現地サイトが報じている。

女子セーリングの４９ｅｒＦＸ級に出場したリオ大会覇者のマルチネとカヘナは、オランダのティナ・ルッツとスーザン・ボイケのコンビとは僅差の２位で決勝に臨んだが、決勝ですぐに逆転。余裕の２連覇となった。

マルチネの父のトーベン・グラエルもセーリング選手で、１９８８年のソウル大会から２００４年のアテネ大会まで、５大会連続でメダル獲得の実力者だった。

陸上男子の４００メートル障害では、２１歳のアリソン・ドス・サントスが３位で銅メダル獲得となった。アリソンは準決勝で４７・３１秒の南米記録を更新する好タイムで決勝に進出。決勝でも、世界記録を書き換えて優勝したカールステン・ワーホルム（ノルウェー）の４５・９４秒やライ・ベンジャミン（米国）の４６・１７秒同様、４７秒を切る４６・７２秒の好タイムを出し、南米記録を再更新した。

男子ボクシングのヘビー級では準決勝が行われ、アブネル・テイシェイラが金メダルを狙ったが、キューバのフリオ・セーザル・ラ・クルスに１ー４の判定負け。同種目は３位決定戦を行わないため、銅メダルとなった。

３日に獲得した四つ目のメダルは陸上男子の棒高跳びで、リオ大会の覇者チアゴ・ブラスが５メートル８７センチの記録で３位となり、銅メダルを獲得した。チアゴはリオ五輪後、記録が出ずに伸び悩んでいたが、この日はリオ五輪以降での自己ベストを記録した。

男子サッカーの準決勝のブラジル対メキシコ戦は、０ー０でＰＫ戦に突入。オーバーエイジ枠で参加のキーパー、サントス（アトレチコ・パラナエンセ）の好守で４ー１で勝ち、２大会連続での決勝進出となった。ブラジルは７日の決勝戦でスペインと対戦する。

□□□